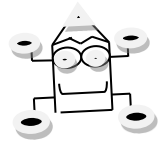




認定調査とつきクン通信(R7年度)



～認定調査員の皆様へ～

東京都現任研修、指導者研修で確認しました。

調査時等に参考にしてください。



1	5	座位保持の評価軸は「能力」。<u>習慣とは区別して考える。</u> *支えなしで10分座位ができるか。座位の角度の定義はない。（あるのは水平な体位） 調査時の起居動作に着目する。歩行や立ち上がり、立位保持など問題ない方でもソファにもたれて座っているということはある。 実際に動作を行ってもらったり、<u>類似する動作の状況をきいてみる。</u> 類似する動作：洗身、食事、トイレなど 「支えが必要」で選択の偏りが生じやすい。 背もたれがないと座位保持ができない。あるいは、<u>介護者の手で支えていないと座位が保持できない場合を言う。</u>
2	1	過去1週間において移乗の機会があったか。「ベッド⇄車いす」「車いす⇄便座」等と明確に記載することでその動作が移乗（＝でん部を移動）行為なのかを再確認する。 清拭・じょくそう予防目的とした体位交換、シーツ交換、おむつ交換の際の<u>でん部を動かす行為も移乗に含まれる。</u> *時間帯や体調、移乗の機会の発生状況等によって介護の方法が異なる場合は、頻回な状況で選択する。その状況ごとの回数など具体的な記載をする。 ベッド→歩行→便座（直座）は移乗行為ではない
2	2	過去1週間で移動の機会があったか。 まず「移動先」「頻度」「移動の方法」特定する。 なぜ、いつ、どこで、だれが、どのように、何をしているのか確認していく。 *よくある特記 <u>よく</u>転ぶため移動は見守りを要する。「見守り等」選択 →いつでも手を差し伸べられる至近距離で介助者が付き添っているのかどうか 「よく転ぶ」とあるが 「よく」「しょっちゅう」「いつも」は頻度ではない。<u>頻度は数字で</u> 直近の転倒は？「最後に転んだのは？骨折や打撲、あざ等聞きとる。

3	4	調査の後半で、質問せず調査開始 10 分以内に 3-4 の問いかけをするのがベスト。 3 品提示によるテストは質問での確認が難しく、立会者がいない場合に行うもの。 3 品提示の方法はテキストの通り、<u>「ペン、時計、視力確認表」以外の物は使用しない。</u> 3 品見せて何度か復唱させ、見えないところにしまい、5 分以上してから 2 品を提示し、<u>残り 1 品を聞く。</u>
5	6	過去 1 週間で最も多かったのは炊飯か加熱か、即席めんの調理かを特定する。 ・炊飯が最も多ければ、ほかの調理の機会があっても「炊飯」のみで評価。 ・レンジ（湯煎など）加熱が最も多ければ、ほかの調理があっても「加熱」のみで判断。 ・即席めんの調理が最も多ければ、ほかの調理があっても「即席めんの調理」のみで評価。 *夏場は、弁当を温めたくない、漬物や梅干しが温まるのがイヤ、ということでレンジ加熱していない方もいるので、一概に「冷たいから不適切」とは言えない場合もあります。 生活歴や個別性に配慮しながら注意深く確認する。

